

SHOEIスピリットをあなたに発信!

SHOEI®
PREMIUM HELMETS

SHOEI PRESS

Vol.01



データと感性に裏づけされた エアロフォルムで、 300km/h域の風をも制する。

製品になるまでクレイモデルの試作はおよそ200。
風洞実験などのテストも繰り返して生まれた
エアロエッジスポイラー2。
SHOEIだけのこだわりのストーリーを、
圧倒的に進化した最新モデルX-TWELVEの開発陣が語った。

常識に流されないこだわりが、エアロエッジスポイラーを生んだ。
自動車が空カブームに沸いた、1980年代。流れるようなフォルムをヘルメットに取り入れたら...。そんな遊び心で描いたスケッチが、我々のスポイラー開発の原点です。当時、ヘルメットは丸いのが常識ですから、もちろんスポイラーという発想なんてあり得ません。でも我々には漠然とした確信

がありました。そこで、クレイモデルを作っては風洞実験室に持ち込んだり、海外のトップデザイナーに試作を依頼してみたり、こつこつと開発を続けていきました。90年代に入り、それまで風洞実験は社外の施設を借りていたのですが、いよいよ社内に風洞実験室が完成、開発のスピードは一気に早まりました。そしてレース専用デバイスの具体的な開発へと受け継がれ、実際のレースなどでさらに磨き上げられた成果が、最新モデルX-TWELVEや前身のX-Elevenのエアロエッジスポイラーを生んだのです。今から思えば、もし80年代、ヘルメットの常識にとらわれていたら、我々のスポイラーはなかったかもしれませんね。

